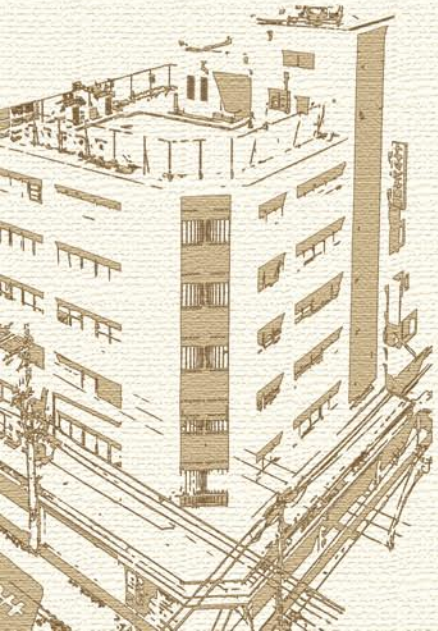
栄和建設株式会社 創立六十五年

更なる未来の発展を

礎石



栄和建設株式会社

栄和建設株式会社　創立六十五年

礎石

ごあいさつ

栄和建設株式会社　取締役社長　戸田　孝

当社は今年創立六十五年、創業から数えますと七十四年を迎えることとなります。ご愛顧を賜りましたお得意様はじめご尽力いただきました皆々様のお陰でございます。有り難く厚く御礼申しあげます。

第二次世界大戦前の昭和十五年、創業者、戸田孝平は誠実一筋の技術者と評され、日本財界の大御所・伊藤忠兵衛様のご愛顧をいただき、氏が創立されました丸紅株式会社様、伊藤忠株式会社様、呉羽紡績株式会社様と、その関連会社様の建築、増改築などのお仕事を担当させていただき、今日に至っております。その後、多くのお得意様のお引き立てを賜り今日を迎えることができました。感謝の心でいっぱいでございます。

私は、昭和二十五年に入社、昭和五十一年に社長を引き継ぎ三十数年、先代の「お客様第一、社員を大切に、人のお役に立つ」この教えを守り今日に至っております。

これからも技術者（一級建築士、法令建築士、構造専門者）として、お客様にご安心いただける、安全で長持ち、リーズナブルな建築を目指し、「一意専心」を合言葉に社員ともども、お客様のご要望にお応えし、ご満足いただける仕事に、全社あげて努めてまいる所存でございます。皆様から、お声をかけていただきますれば、直ちに真面目でやる気のある若い技術社員がお伺いして建築、増改築、修繕などのご相談にお応えするよう体制を整えております。

「誠実、敏速」を旨とし、健全経営を基盤に、お客様にご信頼いただける企業として今後も勤めてまいりたいと存じます。何卒、今までと相変わりませぬご厚情、ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

また、関連会社の株式会社トヤマビル、戸田企画設計、株式会社サン・トヤマ（ビル経営）もよろしくお引き立て賜りますことを重ねてお願い申しあげ、ご挨拶とさせていただきます。

平成二十四年十月吉日

戸田　孝

戸田　孝平

トヤマビル東館

トヤマビル本館

トヤマビル中央館

戸田　和孝

第1章　創業者　戸田　孝平

美への想いを胸に

栄和建設への思い

栄和建設株式会社は創業者である父・戸田孝平が、若いころより建築技師としての豊富な経験と研鑽を積み重ね、昭和十三年一月十日、大阪市中央区本町の地に〈建築設計・施工〉を目的として創立しました。

創業以来、七十四年の長きにわたり、〈丸紅株式会社様〉〈伊藤忠株式会社様〉〈丸紅不動産株式会社様〉〈イズミヤ株式会社様〉〈株式会社カンソー様〉〈呉羽紡績株式会社様〉をはじめ、多くのお得意様のお引き立てを賜りました。〈富士古河Ｅ＆Ｃ株式会社様〉〈メロディアン株式会社様〉〈トヤマビル様及びテナント各社様〉ならびに関連各会社様をはじめ、各方面のお得意様からも永くご愛顧を賜りましたお陰で今日を迎えることができました。

先代社長は永年にわたります建築技師としての体験から、変動の多い建設業に、いささかなりとも安定性を与えることを考慮いたしまして、株式会社トヤマビル、株式会社サン・トヤマ（トヤマビル東館）、賃貸社員寮カルムイン城東などを建設、経営いたしました。各社とも堅実に推移いたしておりますことは、誠に心強いことでございます。創立当初より、多くのお得意様からご支援を賜り、心から感謝申しあげます。今後とも「誠実一路」「お得意様第一」をモットーに、堅実な経営を実践して参る所存でございます。

創業者誕生　幼い頃の試練

明治二十八年八月二十日、富山県東砺波郡福野町役場に、父利作、母しんの四男として戸田孝平の出生届が提出されました。明治二十八年は日清戦争終結の年に当たり、日本が初めて外国との戦争に勝利をおさめた輝かしい年でもありました。

父・孝平は、父母の慈しみを享けて、すくすくと育ってまいりましたが、二歳の冬、孝平にとって一生を左右する悲惨な出来事が起こったのです。子守がおんぶしていた幼児・孝平がずり落ちそうになるのを、せり上げた瞬間、手に持っていた竹の枝が、孝平の右目に突き刺ささったのです。目から鮮血が飛び散り、大量の血が噴出したそうです。子守は驚いて家に飛んで帰り、母しんは、慌てふためいて裸足で眼科のお医者さまのもとに駆けつけ、泣きながら頼んだそうです。

「この子の目を治してやって下さい！お願いします！お願いします!!」

医師は手を尽くして治療に当たりましたが、傷は深く、右目はほとんど失明状態になってしまいま

した。先代は生れて間もない幼いころ、一生を左右する右目の失明という試練に出逢うことになったのです。

学校腕白時代から「戸田奨学会」創設まで

明治三十五年四月、孝平は福野尋常高等小学校に入学しました。福野町は富山県東砺波郡の中心的な町でしたので、高等科を併設した規模の大きい学校であったということです。当時、田舎の腕白坊主の行儀の悪さはこの上なしと言われるほどで、特に孝平は腕白坊主の筆頭格で、体は小さいが機敏なガキ大将であったとのことです。反面、優しくてなかなかの人気者であったとのことで、性格は晩年までその面影を留めていたようでありますが、学校の先生にとって扱いにくい存在であったとのことです。先生から「孝平！落第だ!!」と何回も言われましたので、自分自身も落第するものと決めていたようでした。

当時の小学校では、毎年、一学年に二～三人の落第生がいたそうです。

学年末の「成積と進級発表の日」。成績順に書かれた巻紙が担当の先生によって順次開かれていきました。

「一番、戸田孝平」

ワーッと喚声が上がって、みんなが孝平を取り巻き、手をたたき、肩をたたいて大いに盛り上がったそうです。

孝平が小学校を卒業する年に、校長先生は父・利作を校長室に呼ばれて、「戸田君はよくやってくれました。私の知る範囲では福野町始まって以来の子供です。家の経済が許せば、是非上の学校に上げるようにしていただきたい」と、進学を勧めていただいたのですが、家財の競売を終えたばかりの経済状態では、とても上級学校への進学は無理であったとのことです。そのときの悔しさを孝平は次のように語っています。

「友達が白線の帽子をかぶって休暇に帰ってくるのと出会ったとき、どれだけ情けない思いをしたことか！子どもの将来を考えれば、どんなに苦しい想いをしても子供を上の学校にやらなければいけない。その為に、若い遊びざかりの頃から酒に溺れたりすることなく、子供を学校にやるだけの資金を蓄えておくのだよ」と、若い私にもよく言って聞かせてくれたものです。

学校ではやんちゃな孝平でしたが、家では両親を気づかう親孝行の息子であったことを、祖母はよく私に話してくれたものです。

「お父さんには可哀そうなことをしたよ。どんなに苦しい想いをしてでも、上の学校に入れてあげれば良かったのにね。貧乏は辛いものだよ。よく勉強して上の学校に行くのですよ」と励ましてくれ

たことを、昨日のことのように思い出します。

私が旧制中学四年生の頃、脚気を患い、掛かり付けの医師の指導で、「暖かく、食糧が豊富で、水と空気の綺麗な地方にある理科系の上級学校を選んで受験してください」と、ご指導をいただきました。そこで、九州・筑後川のほとり、温かく広大な小森野の農地に隣接し、広い敷地に建設された国立・久留米高等工業の機械学科を受験し、合格しました。同学科では卒業までの三年間、徴兵猶予が認められ、その後、陸・海・空軍の技術将校として、軍需産業の指導者として活躍ができます。三年間の勉学を終えて帰阪するのを今日か、明日かと待っていてくれた祖母に、帰阪して逢いに行ったとき、痩せ細った手で「逢えてよかったね、元気で一生懸命に勉強するのよ！」と、にっこり笑って迎えてくれ、数か月後に穏やかで幸せな人生を終えられたことは忘れえない思い出となっています。

次の年度に、私は大阪帝国大学工学部の入学試験に合格し、三年間の大学生活を終えて、父が創立した栄和建設に入社することになったのです。

父は、進学の志が叶えられなかった想いから、後年、福野町に「戸田奨学会」を創設しました。経済的に恵まれない故郷の、向学心に燃える後輩達に勉学を続けるきっかけとなる奨学会を創設したのです。奨学金で卒業した人達からの「感謝の手紙」によると、「戸田奨学金」のお陰で東京、京都、大阪、東北、名古屋、九州、北海道の旧帝国大学をはじめ、慶応、早稲田などの大学で真摯に学んだ方たちの様子がうかがえます。お礼の手紙を眼を細めて読みながら、微笑んでいた父の姿を忘れることはできません。

「戸田奨学会」により、向学心に燃える多くの青年に教育の機会を与えた功績から、父・孝平は、「福野町名誉町民」の表彰を受けています。福野町としては、ソ連大使として活躍された山田久就氏に続く「名誉町民」の受賞であったのです。

名誉も栄達も求めず、市井の中の一員として真剣に生きた父にとって、故郷の名誉町民に推挙されたことは、最高の喜びであったことでしょう。

負った子に教えられ浅瀬を渡る

孝平にとって高等科の二年間は、師範学校を卒業されて奉職された中田先生の薫陶をいただいた時代でもありました。中田先生は、孝平のクラスを二年間受け持たれた後、更に勉学を重ねられて、東京高等師範に合格されました。卒業後、富山県の旧制中学の教師を歴任され、学校制度の改革後は、高等学校の校長を永く勤められました。その後、富山県定時制高等学校連合会の会長をはじめ、戦後、

衆議員議員として国政に携わられ、富山県の名家・中田家の優れた人材として永く活躍されたということです。

孝平が真面目で行動力に富み、統率力を身につけることができたのも二年間受け持っていただいた中田先生の薫陶によるものであったといえるでしょう。中田先生は遠い昔を思い出しながら、

「教師として最難関の東京高等師範を受験するために、ハードな勉学を続けねばならなかった頃、放課後に戸田君を呼びまして、翌日の授業の打ち合わせをしながら、何時間かの授業を戸田君に任せましてね、大助かりでした。後日、聞くところによりますと、僕の授業よりも戸田君の授業のほうが、盛り上って楽しくやってくれたとのことでした」と、笑いながら楽しそうに話されました。

私が初めて中田先生にお会いしたのは昭和四十八年、トヤマビルの中央館が完成したときでした。先代が富山から中田先生をお呼びして、新装された十階の応接室で楽しく歓談した時のことです。先生が初めて教えられた生徒、戸田孝平が、大阪のど真中に十階建てのビルを建てた快挙を、手放しで喜ばれ、大いに祝福されたことは、私にとっても終世忘れられない思い出となっています。

中田先生は、

「お父さんは、小さいころからよく出来る頭のいい子でしたよ。〝負った子に教えられ浅瀬を渡る〟という諺にありますように、背負った子供に〝そこは深いよ！こちらには大きい岩があるよ！あちらの流れは速いよ！〟と教えられながら浅瀬を渡るように、戸田君にはいろいろ教えられて浅瀬を渡ったものです」と、昔の懐かしい思い出を辿りながら話された光景を思い出します。

その後も、恩師中田先生ご夫妻をお招きして、京都、高野山、奈良、伊豆などにご招待し、毎年、孝平と母マツがご一緒して楽しんでいただけたことは、両親にとって幸せな思い出になったでしょう。

中田先生が白内障を患われたとき、家内・操が卒業した母校の関西医科大学の眼科医長に手術をお願いするなど、家族ぐるみのお付き合いを永く続けることができたことは、両親、家族にとって嬉しく楽しいことでありました。

天覧絵画の名誉に浴す

小学校時代の孝平は腕白小僧の筆頭であったようで、成績も断然トップであったということでした。大正天皇陛下が皇太子時代に富山県に行啓された時、県知事は県下の教育の成果を陛下にご説明し、生徒達の作品を御覧いただく栄誉に浴することになっていました。この度の行啓に際し、県下の尋常科、高等科、中学校、などの生徒達による優れた作品を出品するようにとの連絡が学校に入り、この千載一遇のチャンスに自校の名誉を高めるために、誰を選ぶかが校長はじめ先生方の真剣な課題であったということでした。

結論として勉強も絵画も書道も戸田孝平以外にいないと決まり、天覧いただく絵画と書道の作成に取り掛かることになりました。絵筆も絵具も真新しいものを学校から支給され、最初の日には、新しい肌着と着物を家で着せてもらって、制作に取りかかったということです。ニュースの少ない町のことでもあり、このニュースが伝わると、「町全体の栄誉」と多くの人々から「頑張ってね！頑張ってね！」と大変な激励を受けたとのことです。

天覧の日、校長先生に連れられて、作品を出品する生徒達が県庁に集合し、眼のあたりに、大正天皇陛下を拝んだ感激は終世忘れることができなかったようで、その時の感動の話をよく聞かせてくれたものです。

八十歳を過ぎた頃の孝平は、

「年を取るとね、今したことは直ぐに忘れるが、昔のことは、はっきり覚えているものだよ」と記憶を辿りながら、よく話してくれましたが、孝平にとって天覧の日の緊張と感激は、終世忘れることのない思い出であったのでしょう。

天覧の日、菊の御紋章入りの記念品をいただいて家に帰りました。

両親は揃って、仏壇にお灯明をあげ、菊の御紋章入りの記念品を供え、御先祖様に報告したそうです。

「長い間、ご先祖様のご恩に酬いることができませず、貧しい日々を送って参りまして、申し訳ないことでございました。人様にご迷惑を掛けずに善行を積んで参りましたお陰で、四男・孝平の絵が大正天皇陛下の皇太子時代の行啓に際して、天覧の栄誉に浴するお恵みをいただきました。誠に有り難うございました。今後とも何卒お守り下さいますようお願い申しあげます」と声を上げて、ご先祖様に感謝の御礼を申しあげたのですが、その語尾は喜びで擦れ、とめどなく涙を流したということです。

美への想いを胸に

創業者・孝平の美へのあこがれは、宮大工として勇名をはせた父・利作の影響があったのでしょう。利作は彫刻師としても秀れた才能を持っていました。近在の井波町は日本の彫刻、塗師、寺社建築の芸術家を多く輩出している地として現在も有名です。井波伝統文化が開花したのは、古くから利作をはじめ才能のある人たちが技術を競ってきたことによるのでしょう。その伝統が激動の時代を経て、浄土宗・井波別院を中心に、当時、盛んであった真言信仰によって多くの寺社が建立され、絢爛たる彫刻が内部、外観ともに施されていきます。富山県東砺波郡井波町独自の寺社芸術の興隆によって、彫刻芸術が雪深い北陸独特の芸術文化として開花していったのであります。

このような芸術は、雪深く産業の少ない土地で開花した文化の一端を担った祖父や父など、多くの秀れた人達の誇るべき遺産といえるでしょう。

孝平が若いころから培った絵画創作の才能は八十八歳を超えた晩年になっても見られました。トヤマビル中央館十階の応接室にイゼールを立てて、百二十号の「大正池の朝景色」を油絵で描いていた姿は、私達にとって終世忘れえない思い出でもあります。

昭和33年　孫和孝を抱いて　孝平63才

父・孝平が人生をかけて育て上げた栄和建設、トヤマビル、サン・トヤマ（トヤマビル東館）は、その心を引き継ぎ長男・孝、孫・和孝が受け継いで堅実に経営に励んでいます。長男・和孝は、灘中、灘高から東京大学を卒業後、大学院修士課程を修了し、博士課程への進学を勧められ、将来・東京大学教授への道が期待されていました。本人には誠に気の毒でしたが、先代から私の後継の経営者にと選ばれていたため、大阪に帰郷し、現在トヤマビル社長としての重責を果たしています。芸術、建築設計部門において優れた才能を活かしてくれているのも、若いころから祖父の資質を受け継ぎ、優れた感性と、芸術的才能に長けていることによると思われます。各地の展覧会に素晴らしい作品を出展していることも大変喜ばしいことであります。

加えて、大阪建築士事務所協会の重鎮として活躍してくれていることは、何にも増して頼もしいことです。

禍福は糾える縄の如し

先代が幼い頃に、右目の光を失うというという絶望の淵にたたき落とされるような悲劇を体験したことで、生涯不便な生活を強いられることになりました。しかし、「この禍が不撓不屈の精神を生み、自分自身を励まし助けることになったのではないだろうか」と晩年、父本人が語ったことがありました。孝平が二十歳になって、男子国民の義務であった徴兵検査を受けたとき、体格も健康状態も甲種合格でしたが、両眼の検査で銃の照準を合わせる大切な右目が見えないため、丙種を言い渡されました。このため、兵役につくことができなかったことに肩身の狭い思いをしたことでありましょう。

明治、大正、昭和の時代を通じて、東洋における日本と清国、日本とロシアとの関係が緊迫の度を増し、遂に日清戦争、日露戦争が勃発しました。多くの青年男子が徴兵されて、祖国のために命をかけての戦いに赴くことになり、続いて日本と中国、ソ連との事変が起きて、青年男子の多くが戦場に赴くことになります。孝平の弟・茂外次氏は日支事変に徴兵され、妻と幼い子供二人を残して中国・

広東省で戦死しています。さぞ無念であっただろう！と孝平は、弟とその家族の悲しみを慮って、世の無常を嘆いていました。それに比べ、自身は右眼の視力を失ったことで、戦場に赴くこともなく、家族と平穏な生涯を共にする幸せを振り返り、「禍福は糾える縄の如し」と諺にあるように、「右目の視力が無くなったという禍があったために、一命を賭して戦場に赴かなくてもよかったのだね。人生には、よいこともあれば苦しいこともある。それを自分なりに、誠実に努力することで良い方向に向けることができるであろうし、それがまた人生の妙味なのだよ」と実体験を織り交ぜて、よく話してくれたものです。

第2章　修行時代

天職建築技術を磨く

佐伯工務店勤務時代

孝平の修業時代は、創業間もない佐伯工務店に入社した時から始まります。現場で学び、設計製図の手伝いから使い走りと、全く一からの出発でありました。

故郷で淋しく暮らす母・しんを想い、一銭でも多く送金できるようにと倹約の日々であったそうです。

佐伯工務店の本社は大阪港区の夕凪橋にあり、孝平は大阪港の工事現場を担当することになりました。国で待っている母しんを想い、一銭でも多く母に送ってあげたいとの思いから、電車に乗らずに、現場まで歩いて通い、酒、煙草、道楽には一切手を出さず、国の母親にお金を送り続けました。時間のある時には、ひたすら仕事を覚えることに専念し、業種別の詳細なデータを整理し、正確な積算技術を磨く努力を重ね、建築技術者としての資質を高めていったということです。

佐伯社長は、全員を前にして「戸田が見積もって、監督した仕事で損をした工事は一つもない。貴様ら戸田のやりかたを見習え!!」と、よく他の社員達を怒鳴り付けられたということです。その理由の一つに、見積もり損ないによる工事の損失が目立ったからであり、ある時は、七十棟の木造住宅の屋根瓦の枚数を、片面だけ積算して、二倍するのを忘れたとか、単位を間違えて二分の一の値段で積算したとか、データによる総合チェックが行われていなかった為のミスが多かったようです。

孝平は時間があれば図板に向かって鉛筆を走らせ、設計の訓練を繰り返したそうです。若いころから絵画の才能に恵まれていたこともあって、特に設計・製図の上達は早いと言われていたようでした。

当時「図面を描く時には立って書くこと」と教えられた孝平が八十歳を過ぎても立って図面を引いていた姿を懐かしく思い出します。若い頃からの習慣になっていたのでしょうが、見習うべきことが多々あることを感じる今日この頃です。

孝平が二十四歳の春、佐伯工務店に、飛び上がるようなニュースが舞い込みました。

国立・大分高等商業（現・国立大分大学・経済学部）の講堂新築工事の競争入札に、多数の建設業者が鎬を削って参加する中、孝平の積算が見事に他社に打ち勝ち、落札することができました。佐伯社長は飛び上がって喜ばれたということです。

佐伯社長は、講堂新築工事の工事主任として、二十四歳の孝平を指名されました。

過去の事例からみて、勝ったとしても、損を出す率が高かった競争入札において、孝平が積算して落札し、工事主任として努力した工事は、すべて適正な利益を上げることができたという伝説めいた

実績があり、後年その秘訣を細々と教えてくれたことがあります。

「設計図面を細部にわたって観察し、頭に入れること。図面には無駄な箇所や、施工が困難な箇所があるもので、これらの個所を丹念に書き出し、効果は同じでもやりやすい施工方法を考え、設計と同じ効果を実現する方法を考えておくことが大切なのだよ。

このような課題をよく検討して入札すれば、勝つことができるし、無駄の多い無意味な仕事に固執すれば、国家的な損失にもなるからね。そのような基本をわきまえ、監督の了解を得て効果的な工法を提案することが大切なのだよ。要は、建築技術に習熟し、細部にわたる施工法を会得すること、人を納得させる熱意と、人に分かりやすく説得する熱心さをもって当たることが大切なのだよ」と、話してくれました。若いころから国で待っている母への仕送りと、生涯をかけて建築技術を天職と心得て、身につけていった父の努力には到底歯が立たなかったことを思い出します。

大分高等商業現場にて
文部省監督と

国立大分高等商業の監督責任者として、文部省から派遣された文部技官・近延技師は、工事竣工の祝賀会で、

大分高等商業（現大分大学）竣工記念　（大正10年 孝平26歳）

「この大工事を完成させた第一の功労者は、若くして重責を担って二年間、まさに寝食を忘れて大いに健闘していただいた建築主任の戸田孝平さんであります。はじめは、こんなに若くて頼りない人に、大工事を完成させる力があるのかな？と疑問をもっていましたが、暫くしてそれは全くの杞憂であることが分かってきました。朝早くから夜遅くまで一生懸命に努力し、豊富な建築知識と技術を駆使して国の大切な工事を期限までに完成させてくれたのです。戸田さん！本当にありがとうございました」と、心からの感謝の言葉を頂いたそうです。

佐伯社長は若い社員にとってたいへん怖い先生であったのですが、孝平は晩年しみじみ回想しながら佐伯社長のことを語ったことがあります。

「人の前でぼろくそに怒鳴るし、今、機嫌がよいなと思っても、突如として怒りだす。お天気屋の、雷親爺の典型であったが、頭脳明晰にして人を見る目が鋭く、洞察力に富み、数字に明るく、決断が

速い。つまり経営者としての資質を備えた人であったのだね」と讃えています。

佐伯社長は、孝平をつかまえて、

「戸田！建築なんかで儲けようと思っても駄目だよ。前から後ろから、上から下から見えるもので、競争で取り合いするような仕事で儲かるはずがない！」と、よく話されたということです。

佐伯社長のように秀れた人でも、このように言われるほど、建築とは難しい仕事なのだな、ということを若い孝平は胸に強く刻み込んだといいます。

社員の反乱―八木工務店のことなど

佐伯社長が長い年月をかけ、心血を注いで築き上げた会社を、社員・八木さんが、部下である孝平はじめ優秀な技術者を引き抜き、大切なお得意様を横取りして独立したのです。長年にわたって大切に育て経営の中心を担わせて、ほとんど任せっきりでした。これによって、八木さんは労せずしてお得意様を獲得し、大いに栄え、本家の佐伯工務店は倒産の危機に立たされることになりました。

こんなことがあっていいのだろうか。せめて、八木さんから「戸田君が残って佐伯社長の為に尽くしてあげるように！」と言ってしかるべきではなかったのか？という疑問が孝平の胸を去来したといいます。

将来自分が独立するときには、

＊大切なお得意様を、絶対に横取りしてはならない。

＊どんな事があっても、仕事に慣れた社員を引き抜いてはならない。

＊長年育て上げた社員を引き抜くことは、主人を破滅に追い込む卑劣な行為である。

ということを実感したそうです。

八木工務店は順調に業績を伸ばしていきました。奥さんも子供さんも幸福な壮年実業家の家族として羨望の的であったということです。「紳士的な主人、順調な業績・・」八木さんは得意の絶頂にあったといえるでしょう。五～六年過ぎて充分に貯えができても、「後は戸田君に譲るよ！」の言葉は一切出ませんでした。孝平は自分の若い頃の浅はかな行動を振り返って、愚痴はこぼさなかったが「八木さんの主人に対する不信な行為には、何らかの報いがあるのではないか？」と予感していたようです。

八木さんが家族揃って正月の歌舞伎座の桟敷で観劇を楽しんでいたとき、気分が悪くなって倒れ、救急車で病院に緊急入院しましたが、出血多量の重症で、命は助かりませんでした。主人に対する背信行為のツケがまわったのではないかとの下世話な噂もあったようです。

佐伯社長は「建築業は絶対に大きくしてはいけないよ。中途半端に大きくすれば潰れるよ」と常に

諭され、故郷の小豆島に帰られて、新しい浚渫事業を創業されました。その後、業容の拡大を実現されて、東証一部上場を果たされ、佐伯建設工業を育てあげられました。佐伯さんは、その他、丸金醤油の社長、内海町の町長など郷土の開発に尽くされて、小豆島の王様と尊敬されるようになられました。

竹内建築事務所時代

孝平が新（アタラシ）工務店に勤務していた時代から親しくしていた竹内建築事務所の代表から、大工事の管理監督者として、是非戸田さんの力をお貸しいただきたいとの申し入れがありました。当時、紡績工業は全盛期を極め、輸出によって外貨を獲得し、日本経済に大きく貢献する産業に成長して、莫大な軍事予算の多くを受け持つほどの勢いでした。

更に天然繊維から人造繊維（レーヨン）の研究が進み、工業化が盛んに行われる勢いでした。しかし、レーヨン工場の設計技術者が少ないこともあって、孝平に応援を求められたのです。

孝平は佐伯工務店入社以来、修業を重ねて実積を上げてきましたが、実績と対人関係が深まるに連れて酒の量が増えていました。その上、細部に至るまで気を使う建築設計業務の多忙さを紛らわすために毎日相当量の酒を嗜むようになり、胃を極度に酷使したようでした。

昭和九年、孝平三十八歳二月の朝、朝食を食べようとした時、突然口を押さえて流し台に走りました。

おびただしい吐血が襲い、洗面器に三杯分の血を吐いたのです。その場に倒れたまま意識が薄れるほど激しいものでした。

母マツは、震える手で掛かり付けの医師・小菅先生に緊急の電話をかけました。

先生は「すぐに氷嚢に氷を詰めて胃の上に乗せなさい。絶対安静だからその場で枕をさせ、寝かせてください！すぐに行きますから」とテキパキと指示されて、往診に来ていただきました。母の弟・北田芳太郎、浅次郎さんから大量の輸血を頂き、やっと脈が甦りました。

小菅先生は「戸田さんほど運の強い、生命力をもっている人を見たことはありません。これに懲りて体を大切にすれば長生きするでしょう」と励まして下さいました。

竹内建築事務所の社長は、多忙で苛酷な設計業務の為に大病を患ったのであろうと気を遣われ、休養中にも給料を届けられ、見舞われたということです。

竹内建築事務所は、北浜の対岸難波橋に近く、四階建てのビルの三階にあって、天神祭の船渡御を見学するのに最高の場所にありました。母と姉と私がビルの中から、夏の風物詩を彩る天神祭の船渡御を見学した思い出は、今も強く印象に残っています。

竹内建築事務所での仕事は、工事主と基本的な打ち合わせを行った後、基本設計、構造計算、詳細設計、設備設計、予算の算定など系統的に進め、図面の作成、予算の編成、工事期間の策定など、詳

細な仕様書を作り、充分に準備が整った上で施主の了解をいただき、建設業者の入札が行われることになっていました。

今も記憶に残っているのは、大日本紡績のレーヨン部門・宇治工場、第一期、第二期、第三期の広大な工場をはじめ、福島人絹(株)の三田尻工場（山口県）、その他、多くの大工場の設計を手掛けられていたことです。父は設計者として、大日本紡績の監督をはじめ、福島人絹(株)の三田尻工場の総監督に指名され、完成するまで現地で監督をする条件になっていました。そのため、父、母、姉、私、弟と一家をあげて、山口県防府市三田尻に赴任転居することになりました。私が小学二年生、姉五年生、弟二才のときでした。

夜行列車の寝台車に乗って、初めての家族旅行という楽しい思い出となったことを懐かしく思い出します。転校した華保小学校では山口の方言に悩まされ、私が大阪弁で話すと大笑いされたことなど懐かしく、忘れ得ない思い出も多くあります。休日に家族で水晶の採取に弁当持参で通った桑ノ山の思い出も懐かしく、今も記憶に刻み込まれています。この出張滞在は一年半に及び、帰阪して小学校に帰り、山口弁で喋る私の言葉が面白かったのか、友人みんなに笑われ、冷やかされたことも懐かしい思い出となっています。

父の生活は今までの不規則な建築業務から、朝九時出勤、昼休み、夕方五時終業、帰宅という規則

南御堂　仏教会館（昭和5年設計・監督）

窓、壁のデザイン

正しいものとなりました。総監督として、このような生活を工事完成まで二年間続けたことで、健康を回復し、往年の元気を取り戻したことは一家にとっても、本人にとっても幸せなことでした。栄和建設の創設も、トヤマビルの建設もこのときの幸運のお陰と言えるでしょう。

先代が設計者として参画した各種の建築は、御堂筋に面したテラコッタ彫刻の外壁をもつ仏教会館、北浜の店舗、堺筋の原田病院をはじめ、大小の店舗、ビル、住宅設計など多くの作品があります。この時代に完成したガスビル、伊藤満ビル、そごう、某銀行などが続々と建てられ、大阪市内は近代的な整備が急速に整いつつありました。孝平は、次々に建設されていく構造美溢れるビルディングを眺めながら、

「いつか自分のビルを大阪のど真中に建てたい!!」と、以前から抱いていた夢のような願望を思い出したようでし

た。しかし、大阪市内の中心部に土地を所有することなど、資金力のない父・孝平にとって到底不可能であった時期に、高層ビルを建てることなど万に一つの可能性もなかったのです。

孝平さんは将来総理大臣にならられるのではないですか？

父孝平が亡くなって数か月後のある日、「大分高等商業学校の工事時代の昔から、仕事の面で先代のお世話になりました者達ですが」と、材木会社の番頭さんを始め、十人余りの建築材料、施工関係の人々が父のお悔やみにやって来られました。

十階の応接室でテーブルを囲み、コーヒーを飲みながら、それぞれの人が語る珍しい父の昔話を懐かしく聞かせていただきました。

「昔から孝平社長さんに大変お世話になりました。大分高等商業の工事では、孝平社長さんから、〝競争入札で落札した厳しい工事だから、予算に合わせて協力して下さいよ〟と事を分けて頼まれましてね、大変苦労したことを思い出します」

「先代はどんなに難しい工事でも工夫を凝らして、予算内で収められましたね。綿密な計画を立て、厳しい難しい仕事を収めていかれる先代の優れた技術力と豊富な知識と経験には、下請け業者の全員がシャッポを脱いだものです」

旧制大分高等商業（現大分大学）講堂

「入札工事に慣れた私達が力を合わせても、到底出来ないような難しい工事でも孝平社長さんは、工夫に工夫を重ねられ、不可能と思われることも立派に完成させられたものです」

この様な頭脳と、必ずやり遂げるという信念を持っておられる戸田孝平社長さんは将来総理大臣になるに違いないよ!!

そうだ、そうだ！と皆で、わいわいがやがや言っていましたが、「貸しビルの社長さん程度でしたかね？」で皆大笑い、褒めたり貶したりで、お腹を抱えて大笑いしました。きっと草葉の陰で父も苦笑していたのではないでしょうか。本当に多くの人々から親しまれ、評価され、精一杯の人生を有意義に生き抜き、沢山の教訓を残してくれた親父殿に私は心からの敬意と感謝を捧げ、乾杯したい！

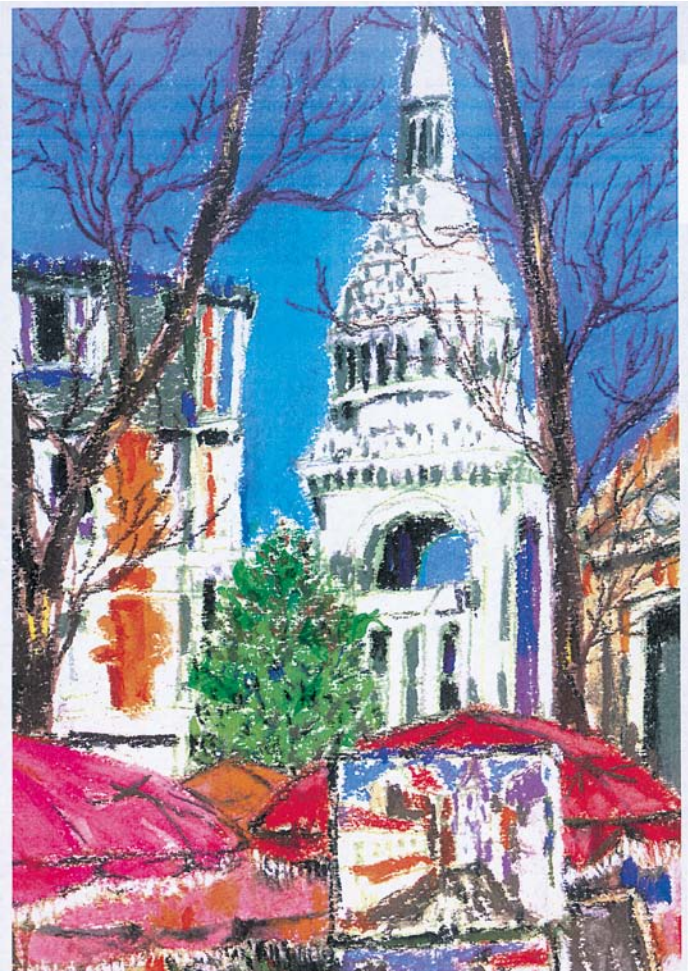
社員諸君、先代社長が創業し、築いてきた栄和建設の精神

①「どんなに難しい仕事でも、厳しい工事金でも、工夫を凝らし、力を合わせて予算内で収め、どんなに難しい工事でも工夫に工夫を重ね不可能と思うことも立派に完成」させる。

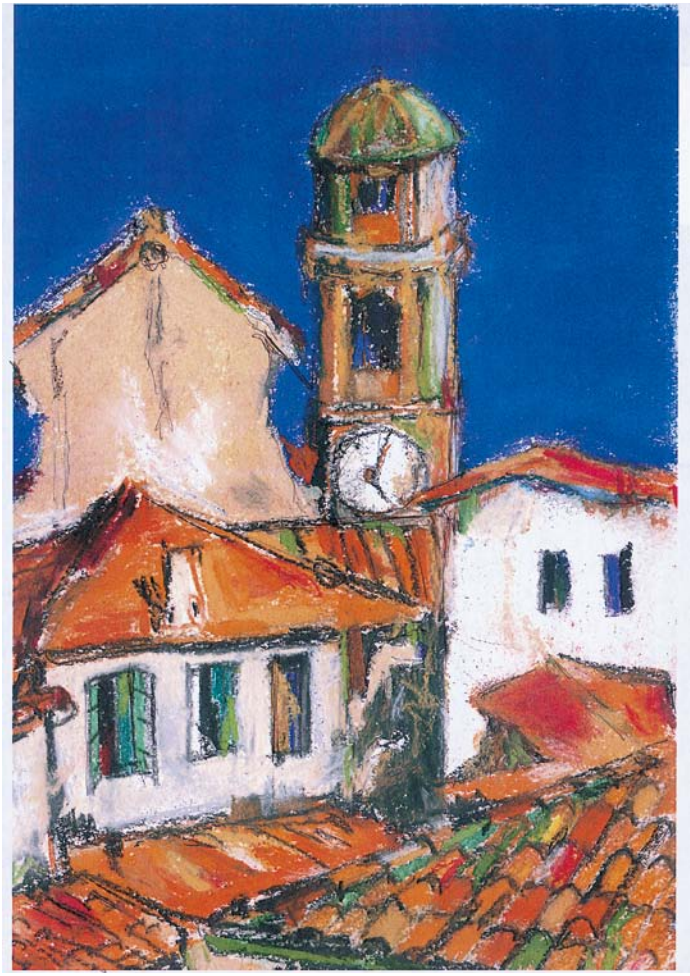
②「人間の能力には限界がある。それ以上は神の領域である。謙虚な気持ちで力いっぱい努力することで、神の恵みをいただける」。

この精神をしっかりと堅持して仕事をし、成果を上げることが、会社の信用、発展に繋る。それが社員諸君と、ご家族皆さんの幸福に繋がることを肝に銘じ、力を合わせて頑張ろうではありませんか!!

新住宅　昭和50年12月号(表紙)　戸田邸外観



フランスーモンマルトル･サクレ･クール寺院
戸田　孝［画］



フランスー街角
戸田　孝［画］

贈られた感謝状の数々

感謝状

栄和建設株式会社殿

貴社は飯和自動車道長峰トンネル
宮浜作業機械設備工事の
施工にあたり、職場の安全管理
徹底を図るとともに安全第一に創
意工夫を凝らされ工事遂行中の無事故
無災害記録を達成されました
また厳密確実な仕事ぶりは
他の工事施工業者の模範となるも
のであります貴社の功績に対し　深甚なる
感謝の意を表します

平成二十三年十一月吉日

富士古河E&C株式会社
長崎自動車道長峰トンネル
宮浜作業機械設備工事
山本晃章

感謝状

栄和建設株式会社殿

当社は飯和自動車道長峰トンネル
宮浜作業機械設備工事の
施工にあたり、職場の安全管理
徹底を図るとともに安全第一に創
意工夫を凝らされ工事遂行中の無事故
無災害記録を達成されました
また厳密確実な仕事ぶりは
他の工事施工業者の模範となるも
のであります貴社の功績に対し　深甚なる
感謝の意を表します

平成二十三年十一月吉日

富士古河E&C株式会社
長崎自動車道長峰トンネル
宮浜作業機械設備工事
山本晃章

感謝状

公和建設株式会社
長崎県知事　戸田　孝殿

貴社は当事業所長崎市内工事に当り
従業員一致協力して鋭意工事に
努力され殊に新型工事に当り
完成サレタシング
コロニ　ソノ功績ハ特ニ顕著ナルモノアリ
ココニ感謝ノ意ヲ表シマス

昭和五十五年十二月十六日

丸紅株式会社
長崎県知事　松尾泰一郎

感謝状

栄和建設株式会社殿

貴社信濃橋屋建設対優秀なる
技術をもって建築工事に即と完成され
まもなくこの度公共事業に協力
深甚なる謝意を表します

昭和三十五年十二月二十四日

関西ビル株式会社
代表取締役　白石辰男

感謝状

栄和建設株式会社
長崎県知事　戸田　孝殿

貴社はいづみや株式会社寝屋川店
増改築工事に当り優秀な技術をもって
に休日返上をもって工事に当られ良好
な成績で工事を完成されました
依って記念品を贈り感謝の意を
表します

昭和四十六年十二月六日

いづみや株式会社
長崎県知事　和田源三郎

感謝状

栄和建設株式会社殿

当社新地店の建築にあたり短期
間の工期にもかかわらず あゆみを困難
なものとし工事を完成されましたことを
ここに深く感謝致します。

昭和三十九年六月吉日

いづみや株式会社
代表取締役　和田源三郎

第3章　栄和建設設立

民間専門の栄和建設は、戦時を越えて

念願の独立と試練

昭和十三年、父・孝平は四十三歳を迎え、念願の独立を果たすことができたのです。

「人生僅か五十年」と言われた頃の四十三歳ですから、実に遅い独立でした。

母マツは、

「毎月、月給のない生活はたいへん不安なもので、戦争は激しくなるし、この先どうなっていくのか心配でした。しかし、家族みんなが元気であればどうにかなるでしょうと思っていましたよ！」と話す。楽天的で明るい母は、父孝平を信頼しきっていたのでしょう。

先代の孝平社長は、自分が身をもって積み重ねた豊富な経験から「競争入札で勝ち抜いていくには、厳しい環境に打ち勝つ社員を多く育てねばならない。その為には一騎当千の社員を多く育てねばならないであろう。しかしそれは、並大抵では達成できない困難なことだ。だから我が社は、民間のお得意様を担当する社員を選任し、営業から計画、設計、見積り、契約、工事施工の管理、監督から完成まで一貫して担当し、工事のアフターケアまで出来る社員を育成することで、お得意様の厚い信頼を頂くことを目指し、経営の柱としたい」との考えでした。

若いころ、私も知っていた〇〇組の現場責任者が、公務員の管理担当者に僅かな贈り物をしたことが発覚し、六～七ヵ月の入牢の刑を受け、本人は「スリムになってよかった」などと負け惜しみを言っておられた。一方、孝平社長は、

「仕事を頂くために法律に違反し、社員と家族を苦しみのどん底に落とし入れるような役所の工事は絶対にしないこと。社員諸君が安心して仕事に専念できる現在のお得意様の特命工事と、新しい民間のお得意様を、全社員が力を合わせて護り抜き、お得意様を拡大していくことを経営の柱にしよう」という方針を固めたのです。

先代社長・孝平が永年にわたって培ってきた対人関係から工事の依頼が次々と入ってくるようになりました。勝呂組（住友建設と合併）大阪支店長の小笠原祥光様からは「仕事をきっちりと収めてくれる人が少ないので、戸田さんに応援していただきたい！」という依頼があり、北浜に事務所があった勝呂組大阪支店によく出入りするようになりました。このことから北浜、船場、中の島など、大阪の中心部に仕事が増えていったと考えられ、栄和建設を創設する基盤となりました。

先代が独立し、お得意様を開拓し、各職種の人々を指導し、工事を進めながら軌道に乗った頃、日支事変が大東亜戦争に拡大し、日独伊三国同盟で世界を敵にまわす一大戦争に進展しました。建築

資材は軍部優先、木材、鉄製品、セメントなどは配給制度となって、民間に潤沢に回ってこなくなりました。この大きい試練を乗り越えて、今日の栄和建設が存在しているのは、社員全員が衆知を集め、工夫を凝らし、努力を積み重ねることで、お得意様から多くの仕事を継続して頂いたからです。

その為に、過去の経験を生かして、

(1)民間のお得意様を対象に、お得意様別の担当責任者を選任し、誠心誠意、小さい修繕から大きい工事まで、担当者がお施主様のご要望に誠実にお応えできる体制を固める。その上で衆知を集めて、正確で満足していただける工事を実施することが大切である。お得意様には、常に礼儀正しく明るく、誠意を尽くすこと。

(2)民間のお得意様を永続的に保持するには、数々の多くの工事を立派に完成させ、実績を積み重ねて、技術的な体験を多く身につけること。このことにより、お得意様の信頼感を深めることになり、誠実を旨とし、妥当な工事金と、利益率を頂き、永く仕事を頂ける態勢を創り上げること。

(3)会社の信用度を高めて信頼していただく為に、関係会社に不動産等の資産運用会社などを保有し、内部留保を厚くして、会社の堅実性を高めていくこと。

例えば、(株)トヤマビル、(株)サン・トヤマ（トヤマビル東館）、城東区の単身者マンションなどがこれに該当する。

(4)社員の生活を守り、安心して仕事に励める体制を確立するには、長年にわたり、お引き立てを頂いているお得意様の信頼と、堅実な経営基盤に加え、誠実に仕事に取り組み、納期を守り、お客様の身になって考え、努力する真面目で技術的に詳しい社員を育成することなど、総合的な体制を確立することが特に大切である。

(5)人の話を「聞く」ことからはじめよ！

人間どうしが信頼関係を深めて、温かい心の通い合いを実現するには、礼儀正しい態度から始まると言われる。先代社長は話すことは大切であるが、「聞くことが特に大切である」と教えている。第一に、謙虚に人の話を聞くことで互いの人間関係を円滑にし、お得意様の話をよく聴き、記録やメモを取って、忘れないようにすることが信頼を得る為の賢実な道である。

よりよい人間関係づくりを身につけることで、自然に多くの人が集まり、お得意様から信頼され、親しまれる人材へ成長する。

(6)丸紅の社長を務められ、大阪商工会議所の会頭として財界の頂点に立たれた市川忍社長は、会社や個人が土地、建物を購入される場合には、先代・孝平と一緒に現地を視察され、孝平の専門的立場での見解を謙虚に聞かれた。

西宮、夙川の邸宅、芦屋・岩園の邸宅、芦屋・親王塚、六甲山、高槻ゴルフ場周辺の土地が宅地

として適しているかについて相談されて、すべて成功に導かれたことからも、公平な専門家の意見を謙虚に聞くことの重要性が理解できる。

立派な人物ほど人の話を耳をすまして聞く人である。謙虚に相手の話に耳を傾け、謙虚な態度を崩さず、信頼を得ることが善き対人関係を築く為の大切な心構えであり、お得意様のご要望に応える最良の方法である。

(7)礼儀は、人生をより良く生きる為の最大の徳である。

先代社長は、お得意様を訪問するたびに、お世話になっている方々（重役、部長、課長、係長、担当の方々）に最敬礼で感謝の意を表したものである。挨拶を受けられた得意先の方々から、

「何時もお会いするのですから、ちょっと会釈して頂くだけで良いと思いますがね」と言われたこともあったようだが、先代は、

「会社と社員の生活を守るために、大切なお仕事を頂くお得意様に最敬礼で感謝の御礼を申しあげることは至極当然であると思うのです」と応え、

「人生をよりよく生きる為に重要なことは、礼に始まり礼に終ると言われる所以でしょうね」と日頃の信念を謙虚に披露したものである。

社員一同、先代にならって、お得意先の皆様に「最敬礼」で感謝の心を表していただきたい。

「貴方の会社の社員さんは若い人にまでも、最敬礼されますね！」と評価されることが、大切な仕事をいただくための心構えである。

第二次世界大戦に直面して

孝平が独立して、事業が軌道に乗り出した頃、日支事変が大東亜戦争に拡大しました。この時代は、建築資材である木材、鉄製品、セメントなど全般にわたって戦略物資であり、軍需工場には配給の割り当てがありましたが、その他の分野には一切廻ってこなくなりました。孝平が船場方面で仕事をするようになったある日、呉羽紡績の総務部長をしておられた森田茂作さんを訪問しました。森田さんは、同じ富山県・福野町のご出身、小学校の同級生。町で屈指の素封家のご子息で、少年時代から公平で穏やかなお人柄であり、孝平を丁寧にもてなしてくださった。懐かしい話のあと、父・孝平の近況と仕事の内容に耳を傾けられて、

「できるだけお力になりたいと思います。戸田さんなら安心して何でも任せられますからね。大きい建築会社の下請けは、搾り取られることが多く、施主も仕事をする人も得るところが少ないようですからね。先ずは小さいものからやっていただきましょう」と、即座に決断して頂きました。森田さんは呉羽紡績の副社長まで昇進、後に呉羽紡績が母体となって創立された富山紡績の初代社長として

活躍され、トヤマビルのテナント第一号になって頂いた方です。父は若き日の友情に深く感謝したものです。

日本の戦時色が濃くなった頃、孝平は木材の不足を見越して、三重県の久井に良質な桧と杉の山を手に入れました。山から切り出した桧と杉の良材を、津市を流れる大川から引きこんだ人工の貯水湖に浮かべ、水乾法で木材を乾燥させ、近い将来必要になるであろう木材の需要に備えました。ポートランドセメント、代用セメントも将来の需要を見越して倉庫に保管しました。統制が厳しかった鉄材の不足については、軍需工場の放出品を手に入れることで解決しようと考えていたようです。

戦争末期になって、大阪空襲が熾烈になり、焼夷弾攻撃を受けた大阪市内のほとんどが焼け野原となりました。昭和二十年三月十四日、大阪市内から疎開した八尾市山本の家から見た大阪大空襲は、大都市を焼き尽くす熾烈なもので、生涯頭から拭い去ることができないほど激しいものでした。大阪市内のほとんどが焼け落ちて、上本町六丁目から見下ろした大阪市内は灰儘に帰し、やがて広島、長崎に原子爆弾が投下されて、昭和二十年八月十五日に天皇陛下の玉音放送があって、日本の敗戦が確定したのです。

大建産業三社の復興

戦前から、呉羽紡績様、伊藤忠商事様、丸紅様をはじめ、関係各社が戦時の国策に沿って合併されて、大建産業の名称に変わりました。これらの会社は、財界の雄として名を馳せられた伊藤忠兵衛さんが中心になって創設された企業で、戦前、戦後を通じて日本の産業界に大きい足跡を残されています。この三社の合併によって、建築関係の仕事も増加し、孝平社長は若いころから身につけた計画、設計、積算、交渉、工事監理など、多忙な日々を送ることになりました。

一方、大阪市内の爆撃によって、堺筋本町に本社があった呉羽紡績、伊藤忠商事、丸紅の大建産業三社の本社も、莫大な被害を受けて、大阪ビルディング（大ビル）に事務所を移されましたが、戦争終結後に外地から次々と帰国する社員を受け入れる事務所の必要度が高まり、業績の向上、拡大を目指す計画もあって、旧本社のあった発祥の地・堺筋本町の地に建物を建設する計画が持ち上がりました。

大建三社は、一日も早い復旧の秘策を練られましたが、戦災で焼失した木材、鉄材、セメントなどの資材を保持している建築会社は皆無に等しく、資金の封鎖もあって、大会社といえども潤沢な建設資金を調達することが難しい状況でした。

このような混乱した戦後のある日、創業者・孝平が大建産業の役員室に呼ばれ、

「戸田さん、貴方は木材・鉄・セメントなどの建築資材を持っておられると聞いていますが、大建三社の事務所を復旧するだけの資材を用意できますか?それと国策に沿って資金が封鎖され、運転資金の必要性を考えれば建築に回す資金が調達し難い状態なので、我が社が持っている土地を貴方に買い取ってもらい、その資金で本社の修復をお願いしたいのですが、永年のお取引きのよしみで是非協力して頂きたいのです」と実情を話され、建設を依頼されました。

孝平は思い切りの良い結論を出し、早速「お仰せの通り、ご協力させていただきます」とお受けし、準備に取り掛かりました。

戦後の混乱期は、多くの人々が食べ物や衣服に困窮し、都市機能は麻痺し、道路に敷き詰められた油の沁み込んだ木煉瓦を掘り起こして燃料にするというような、かつて経験したことのない困窮の時代でした。

孝平は早速、久井に保管してあった松、桧、杉の角材や板材、セメントなどの建築資材を、トラックと運搬車を大量に動員して大阪に送らせました。

その当時、社員としてご苦労いただいたのは、矢幅明君、中野実君、安田惣一郎君達で、初期、栄和建設の技術社員として頑張っていただいた方々でした。

丸紅(株)、伊藤忠商事(株)、呉羽紡績(株)の事務所ビルは、爆撃の被害で、復旧が危ぶまれていました。三社の要請を達成するために、昼夜連続で強力なポンプで水を排出し、汚泥を処理し、雨水が流れ込まないように堰を作りました。伊藤忠さんの外装は、全館のサッシュを入れ替え、地上一階～六階まで、白の二丁掛けスレンダータイルを貼って真っ白に仕上げ、焼夷弾で焼け落ちた内部は、セメントとプラスターで仕上げて蘇り、道行く人びとの目を引くほど、素晴らしい修復を成し遂げることができました。

丸紅さんは、外部階段から流れ込み、地下一階から地下三階まで充満した雨水を、連続ポンプアップにより長時間かけて排水しました。丸紅さんの本社は、地下三階、地上八階の計画の内、二階が完成した頃に戦争を迎えたこともあって、地上二階までの鉄筋コンクリートの建物を改修し、その上に木造で一階を増築しました。事務所としての内装・外観共に、眼をみはるほど立派な出来栄えに仕上がり、道行く人々の目を引くほどの修復を成し遂げることができたのです。これを可能にしたのは、大阪市内が空爆された時には、都市機能が麻痺することを読み取っていた孝平社長の慧眼によるもので、大過なく復旧工事を完成することが出来て感謝されたことは忘れ得ない喜びでした。

先代孝平社長が先頭に立って大商社二社と、十大紡績の雄・呉羽紡績の本社の改装工事が出来上が

り、当初の契約通りに安土町二丁目十二番地までの四百坪、本町二丁目の二百二十坪、北久太郎町の二百坪を取得しました。その後、安土町と八百屋町筋の角地約六十坪を知人より入手し、夫々の関係会社が有効利用することによって、厚みを増していったのです。

この超多忙な時期に法人組織に改め、昭和二十二年八月二十九日、栄和建設株式会社が設立されています。

当時、私は大阪帝国大学・工学部（現在の大阪大学）に在籍中でしたので、簡単な図面の手伝いをする程度で何の戦力にもなりませんでした。姉・登茂子の夫、上農保雄さんは、旧制大阪市立大阪商科大学を卒業し、経理部門を担当され、後日役員として四十年余にわたって勤められました。栄和建設の復興、発展に貢献をされたことは有り難いことでした。

戦時中に荒れ果てた伊藤忠商事様、丸紅様、呉羽紡績様などのお得意様関連会社の復旧工事が、上記各社から同時に指名され、得意先別に配置された社員諸君は多忙な日々を送ることになりました。加えて新しいお得意様も増え、今日の栄和建設の基盤を築くことになったのです。

先代・孝平社長は、

「全社員は、日々の仕事に全力を尽くして勤勉真面目に精励し、社会事情の急激な変遷があっても経営ができる蓄えをつくらねばならない。それには三段構えの準備が必要である。第一段階は安定事業の育成、第二は可処分資産の蓄積、第三は不動産の所有である」と語っていたことを思い出します。困難な時代を生き抜いた孝平社長の考え方は妥当であり、適切であったと言えるでしょう。復興ブームに乗って規模を大きくした建設業者や、雨後の筍のように増加した新興業者は、その後の不況の影響を受けて倒産する企業が続出しました。規模を大きくするのではなく、内容の充実と堅実な経営に重点を置いた我が社は、戦後の混乱の中にあっても生き残ることができたことは誠に幸いでした。

年賀に来ていただいた栄和建設社員と関係者

孝平社長は、「不況時にも社員や家族に憂き目を見せてはならない」という考えから、超多忙時には全社員が力を合わせて協力し、事業経営に当たる方式を決めました。そして、民間工事のみに徹し、役所の仕事には一切手を出しませんでした。

役所仕事はたとえ人間同士親しくなっても担当の人と飲んだりは絶対に許されないのです。若い頃

いろいろ見聞きした経験をもとに、社員を思いやる心からこの決断を下したのです。

「この人数で、民間工事だけで、会社の経営がよく続きましたね」と同業の人達から感心されたものだが、心の籠った真面目な仕事をしながら、後々までも、この方式を続けようという方針を固め、実行に移し現在に至っているのです。

貸ビル経営への道

「志ある者は、事ついに成る」と後漢書の一節を座右の銘とし、「常に強い願望と、目標を成し遂げようとする固い信念を持ち、将来の希望に向かって勇気を持って進んでいけば、大抵の事は成るものである」と言い続けてきた先代・孝平社長の強い願望とは一体何であったのでしょうか?

「いつか自分のビルを、大阪のど真ん中に建てたい!」という願望だったのです。

戦後の大建三社の復興は目覚ましく、業績も他社に先駆けて飛躍的に伸びて行きましたが、戦禍で焼け野原になった大阪で、子会社や関係会社が業務を再開する為の適当な事務所が得られない状況でした。各社の業務内容は、繊維関係、貿易関係、紙業関係、化学薬品関係など、大阪本町を中心とする船場の中に設けなければ仕事にならないと言われる事業が多かったのです。しかし、当時の船場は爆撃で焼野が原と化し、事務所など見つけることもできませんでした。関係会社の経営者会議の席上で、

「業務を積極的に進めるには、地の利が大切である。戸田さんは建築が本業であり、土地の所有者でもあるのだから、彼にビルを建ててもらい、その上で保償金を預けて家賃で借りれば、我々も助かることになるのではないか」

この考えを伝えて下さったのは、孝平の幼馴染みであり同郷の同級生であった森田茂作さん（富山紡績社長）でした。

孝平は、「この計画がうまくいけば、若いころに抱いていた夢が実現できる絶好のチャンスなのではないか」と考えたことでしょう。

「細部については入居希望の皆さんと、よく話し合って取り決めることにしては如何ですか?貴方に負担をかけないよう、よく考えて下さいね」と森田社長が話され、第一回の会合の日取りと場所が決められました。

入居希望者はできるだけ早くビルの完成を望んでいたので、話し合いは急ピッチで進められました。その会合には、

呉羽紡績（株）　若林紡績（株）　富山紡績（株）　綾羽紡績（株）
萬邦交易（株）　笠野染工（株）　三興製紙（株）　三栄紙業（株）
（株）泉州銀行、アトラス企業（株）、アヤハ商事（株）などの代表者が集まって、戸田孝平と十二人

の代表との和やかな話し合いの中から、具体案が絞られていきました。この話会いの取纏め役として、戦前から、伊藤忠兵衛さんの秘書として永く仕えられた三田一さんが、その任に当たっていただくことになりました。

ビルの名称について、大建三社の創設者であり、多くの関連企業を起こされ、成功に導かれた伊藤忠兵衛さんに満場一致でお願いすることで纏まりました。忠兵衛さんをお呼びして会合を持ったのは、北浜の清友クラブでの昼食会でした。

「ビルの名前は、戸田さんの出身地・富山県に因んで〝トヤマビル〟と片仮名にすればどうだろう。私も富山県に強い愛着をもっている上に、県民の気質は勤勉律儀で、困難に負けない信仰心の篤い人々、豊富で清冽な水が得られることから、福野町に富山紡績を創ったのを皮切りに、井波、庄川、呉羽と、工場をつぎつぎと建設してきたのです。富山県は呉羽紡績にとって、特に縁の深い地でもあります。あとは経営者である戸田さんの選択ということで如何ですか」と話されました。

忠兵衛さんの素晴らしいアドバイスを頂いて、ビルの名称は、先代社長の出身地に因んでトヤマビルに決定されたのです。

トヤマビルの名付け親となっていただいた伊藤忠兵衛さんは、日本有数の財界人であり、「日本カナ文字会の総裁」としてカナ文字の普及に努められた方としても有名でした。その関連もあって「トヤマビル」と命名して頂いたのです。「トヤマビル」は伊藤忠兵衛さんからいただいた名誉ある名前なのです。大切に守り繁栄させることが忠兵衛さんはじめお世話になった方々へのご恩返しになるでしょう。

母親一人を知り合いの離れ座敷に残して、大阪までの片道切符を懐に、母親の明日の糧を得る為に故郷を後にした十五歳の孝平青年の眼には、将来の希望や憧れなどを抱く余裕もなかったでしょう。

しかし、父利作が、親孝行で平らかで穏やかな人柄になるようにと願った通り、無類の親孝行になった孝平。しかも福野町始まって以来の子供と言われる資質をもっていた孝平が、そのまま埋もれてしまう筈がないと思ったのは、彼を知る人々が等しく抱いた思いでもあったでしょう。

株式会社トヤマビル（創立当時）

1、名称　株式会社　トヤマビル
2、資本金　五百万円
3、本社　大阪市東区安土町二丁目十二番地
4、役員　取締役社長　戸田　孝平
取締役　戸田　孝
取締役　上農　保雄
取締役　北田芳太郎
取締役　森田茂作

会社設立に当たり、株主構成について、
「株式を分配したらとのご意見もあるようですが、これだけは私が全部持たせていただきます」と、孝平が明確に意思を表示し、その気勢に押されて、各社長達はみんな黙りこんでしまったのです。
「平素は謙虚に、他人の言うことに耳を傾けて多くの意見に順応していかねばならないが、ここ一番という時は、自分の意思を明確に、一歩も引き下がらない不退転の心で事に当たらなければならない。これだけはよく心に刻んでおくことだよ」と、先代が語っていたように、自分の意志を主張し、実行したのです。
忠兵衛さんには高所から、
「企業の近代化をめざす今日、あんたもまだ田舎もんだね!!」とお叱りをうけたが、孝平はこのときだけは自分の考えを押し通したのです。
その当時、伊藤忠兵衛さんは財閥解体、公職追放の指定を受けておられたが、呉羽紡績、丸紅、伊藤忠商事をはじめ、多数の関係会社に絶大な力をもたれて、多くの相談事項に多忙な日々を送っておられました。

トヤマビルの概要（二〇一一年十月現在）

(1) 本館
建築年／昭和二十八年
面　積／地下二階、地上九階　延　6、581㎡
構　造／鉄筋コンクリート造

敷地面積／８４９・６㎡　　建築面積／７４８・０㎡

(2) 新トヤマビル

建築年／昭和三十三年

面　積／地下二階、地上九階　延　６、９５１㎡

構　造／鉄筋コンクリート造

敷地面積／７９６・７８㎡　　建築面積／７１８・６７㎡

(3) 中央館

建築年／昭和四十八年

面　積／地下二階、地上十階　延　６、２６４㎡

構　造／鉄骨・鉄筋コンクリート造

敷地面積／６４５・０９㎡　　建築面積／５９８・４９㎡

(4) 東館

建築年／昭和四十七年

面　積／地下一階、地上六階　延　１、６８３㎡

構　造／鉄筋コンクリート造

敷地面積／３２０・１６６㎡　　建築面積／２２４・１１㎡

「概要」テナント数／約百社

延べ面積／２１、４７９㎡

ツバメ会の会員に選ばれて

第二次世界大戦後、伊藤忠兵衛さんは財閥解体、公職追放の影響を受けられて、公の職についておられなかったが、呉羽紡績、丸紅、伊藤忠商事をはじめ、多数の関連会社に絶大な力を持っておられ、各社からの相談に応じられながら、多忙な日々を送っておられた。後日、日本経済の母体である電力事業の再編にあたって、電力の鬼と言われた松永安左衛門氏と共に国家公安委員として大事業を成し遂げられたことは、たいへん有名です。

「忠兵衛さんは、大空に灰を播いたようなスケールの大きい方で、日本財界の将来を担う大人物である」と経済評論家の賞讃を浴びておられる偉大な方でした。大建三社と関連会社の経営者と、そのＯＢによる親睦の会を作り、二か月に一度の経営懇話会を聞き、昼食をともにすることになっていました。この会を「つばめ会」と名付け、名をあげ、功なった年配の経営者が元の古巣に戻るツバメのように和気あいあいとした集いでした。大建産業と関係のない父・孝平が、忠兵衛さんの一言で「ツ

バメ会」の会員に選ばれたことは異例のことでした。父が所用の為に出席できないときには、私が代理として出席することになっていて、財界の偉い方々が多く出席される場に同席し、お話をする機会を持つことができたのは、他では得られない社会勉強の場となったと感謝しています。

ツバメ会の例会
伊藤忠兵衛さんを中心に大建グループの社長が揃っている。
後列右から3人目が戸田孝平。

ブルーリボン賞を受賞した船に乗ったことはありますか?

私が父の代理で出席したツバメ会で、忠兵衛さんは若い私をつかまえて、

「孝さん!孝さん!貴方は大阪大学の造船工学科を卒業された専門家だそうだが、ブルーリボン賞の船に乗ったことはありますか」と問われ、

「いいえ、ありませんが。会長さんはお乗りになられたことがあるのですか」とお聞きすると、

「僕は乗ったことがありましてね!イギリスからアメリカまで全速力で航行し、爽快でしたよ!!」

「ところで孝さんは、ハイデルベルグの上空を飛んだことがありますか」

「いいえ、ありませんが」と答えると、

「ハイデルベルグの上空から見る景色は、お父さんの故郷・砺波平野の上空から見る景色とよく似ていましてね、大変懐かしく感じましたよ!」と、いろんな経験談を話していただいたものです。

日本の経済界で有名な「大空に灰を播いたような人物」と、人物の大きさでは有名な忠兵衛さんの偉大な人間像を垣間見た思いでした。今では誰も知らないでしょうが、この頃に伊藤忠兵衛さん、市川忍さん、越後正一さん、井上富三さんなど、トップの経営者との親交が、トヤマビルにテナントを引きつける大きい力となり、現在も引き続き栄和建設に仕事を頂く土台となっていると思うのです。永年にわたって、ツバメ会の会員として、親しくお付き合いを頂きました経営者皆様のご厚情に深謝しております。

現在も伊藤忠商事様、丸紅様、丸紅不動産様、イズミヤ様を始め多くのお得意様から永くご愛顧いただいている幸せを想う時、このご恩は決して忘れてはならないと思うのです。

人を評価し、勇気と喜びを与えよう!!

大阪商工会議所の会頭をつとめられ、丸紅(株)の社長、会長として関西財界に大きく貢献された市川忍社長に、先代・孝平は独立当初から大変お世話になり、親しくお引き立て頂いたものです。建

築や土地に関することはよく相談され、一緒に視察に同行させていただきました。

市川社長は、

「広い分野で仕事をしておられるのですから、何から何まで自分の知識で判断されるのは危険だと思います。その分野の専門家に相談することが適切で、信頼性があるでしょうね。結論は自分が下さねばなりませんが、それまでの調査は専門家の意見を十分に聴くことが大切ですね」と話されました。

市川社長は専門知識と、人柄を評価することを常に心がけられ、それによって大過なく、成功の人生を歩まれたのではないでしょうか。

ある土地と建物を視察に行った帰り道に、

「戸田さんは夜のお付き合いをしないことで有名だが、軽く食事だけなら大丈夫でしょう」とお誘いを受け、社長が行きつけの気安い店に案内されました。この店はお座敷天ぷらの専門店で、主人が客の前で天ぷらを揚げて揚げたてを出すという、念の入った親切なお店でした。

市川社長は店の主人に孝平を紹介して、

「この方は戸田さん。戦前から親しくしてもらっていますが、建築と土地に関しては僕の大先生だ。いつも相談しているので一つの失敗もなく成功ばかりでしたよ。それと実に真面目な方でね、約束されたことはきっちり守られる。だから富山県から出てこられて大阪本町に大きいビルを建てられて堅実な経営を続けておられるんだよ。

僕は思うんだがね、本当に実力のある経営者は戸田孝平さんのような人を言うのだね。

僕達は大会社の名前をバックに、優秀なスタッフを揃えて仕事をするのだから、大失敗さえしなければ何とかなるものなのですよ」と話されました。孝平は市川社長から身に余るご紹介をいただいて、冷や汗をかいたり、赤面したりであったようです。市川社長の「人を評価し、勇気と喜びを与えて頂いた」言葉に感激していた父の晴れやかな顔をよく思い出すのです。

あれこれと先代社長である父の思いや出来事をおぼろげな記憶を辿り記して参りました。思い返せばあっという間のように思います。しかし六十五年という積み重ねた月日の重み、先代社長の言葉の重みは今私の胸にズシンと伝わって参ります。その思いこそ栄和建設の礎石であります。

更なる未来の為に

創立六十五周年を迎えた今、先代社長および諸先輩の心を引き継いだ私たちが、次世代に伝えていくにはどういう取り組みが必要なのでしょうか？

1.先代が創設し、生涯かけて守り通した栄和建設株式会社を何としても守り抜く気概を持ち続けることが必要です。

2.いつもお得意先様への感謝の気持ちを胸に御要望に誠意を持ってお応えする努力を決して怠ってはなりません。

3.社内で無駄な経費を失くし、お得意先様に適性価格で、ご満足頂ける良い仕事を提供しなければなりません。

4.次世代を担う、技術力を持ったお客様に信頼される人間性豊かな新しい人材を育てなければなりません。

5.未来を見据える為、もうひとつ大事なことがあります。

新規開拓に力を注ぎ、栄和建設株式会社として更なる発展を成し遂げねばなりません。

栄和建設株式会社の社員は営業、計画、積算、工事、監督、検収と長年にわたり、真面目に努力し、お得意先様あっての栄和建設株式会社と豊富な経験を基軸に誠意を尽くして、日々邁進しております。

全社員の豊富な経験と、成功体験を生かし、後世に恥じないよい仕事をしたいという姿勢と何事も諦めない努力を惜しまない、その精神こそが、力をあわせることが、栄和建設株式会社の更なる未来を築いていく源だと考えます。

健康に留意し、頑張ることがこれからの10年20年、そして更なる記念すべき日を迎えることができるようにと願ってやみません。

結びにあたりまして、長年にわたってご愛顧を賜りました多くのお得意様に感謝を申しあげるとともに、ご協力賜りました多くの皆々様に心から厚く御礼申しあげます。

社長を囲んで

設計・管理部

誠実一路を歩む栄和建設の社員と共に

栄和建設株式会社　社員名簿

代表取締役社長		戸田　孝
代表取締役副社長		戸田　和孝
常務取締役		山家万里子
取締役		戸田　昇
〃		戸田　恭子
監査役		戸田　岑子
営業･工事部	統括部長	西口　典孝
	推進部長	友永　浩彰
	次長	石川　雅也
	課長	森下　忠浩
	係長	田中　順
	係長	池尻　栄治
	係長	梅田　智喜
	主任	関本　清治
		渡邊　亮介
		平松　直也
設計部	課長	中村　欣哉
		山本　友治
管理部		前田　裕美
		山家　繭子

営業部･工事部

トヤマビル中央館　迎賓室

トヤマビル中央館　エントランス

トヤマビル中央館　迎賓室

施工実績

2007年
住宅・マンション

丸紅株式会社　丸紅甲東荘D棟建物内防犯対策工事
丸紅株式会社　丸紅甲東荘D棟外構防犯対策工事
丸紅株式会社　甲武コートクロス張替え他補修工事
丸紅株式会社　丸紅甲東荘D棟住居内トランクルーム新設工事
丸紅不動産株式会社　カルムイン豊津食堂・ロビー改装工事
丸紅不動産株式会社　カルムイン城東外壁改修工事
大阪府高槻市マンション　大規模修繕工事
大阪市東成区マンション　共用部鉄部塗装及び鉄骨階段防水他工事
大阪市淀川区マンション　玄関前土間タイル張替工事
京都郎　N邸新築工事
大阪市北区　S邸新築工事

オフィスビル

丸紅不動産株式会社　肥後橋パークビル改修工事
丸紅不動産株式会社　扇町パークビル3階空室改修工事
大阪市北区　Rビルテナント入居工事
大阪市中央区　株式会社オーシャンリンクス事務所改装工事
アイケイビル　屋上防水改修工事
アイケイビル　各階共用部及びトイレ改修工事
株式会社イトーキ　西天満パークビル3号館空室整備工事

商業施設・病院・公共施設

株式会社カンソー　イズミヤ松原店改装工事
株式会社カンソー　イズミヤ北助松店各所改修工事
株式会社カンソー　イズミヤ学園前店鉄骨階段塗装工事
株式会社カンソー　イズミヤ古市店外装改修工事
株式会社カンソー　イズミヤ和歌山店1階トイレ新設工事
株式会社カンソー　イズミヤ淡路店防水改修工事
株式会社カンソー　イズミヤ南港センター管理棟2・3階改修工事
株式会社カンソー　イズミヤ南港センター雑排水処理設備に伴う基礎等建築工事
イズミヤ株式会社　イズミヤ和泉府中店東面鉄骨階段塗装工事
イズミヤ株式会社　南港センター平成19年度改修工事
メロディアン株式会社　研究棟新築工事
Sクリニック　大規模改修工事
株式会社サン・ロジサービス　泉佐野センター ソーター新設に伴う中2階撤去等建築工事
富士電機E&C株式会社　宇部興産株式会社堺工場架台工事
富士電機E&C株式会社　中山鋼業株式会社外壁新電機室足場基礎工事
大阪西運送株式会社　大正紡績株式会社特高版点検架台工事

2008年
住宅・マンション

丸紅不動産株式会社　カルムイン緑地公園1階エントランスホール・食堂改修工事
丸紅不動産株式会社　カルムイン西長堀バルコニー非難工事
丸紅不動産株式会社　カルムイン西宮トランクルーム外壁改修工事
丸紅株式会社　丸紅甲東荘D棟建物内防犯対策工事
日本住宅管理株式会社　谷町グリーンハイツパラペット爆裂改修工事
日本住宅管理株式会社　ギャラリーコート上野芝擁壁爆裂改修工事
日本住宅管理株式会社　ドルミ新淀川駐車場改修工事
Y邸　旧水路側駐車場新設工事
T邸　敷地内外交工事

オフィスビル

ダイアパレスビル本町　大規模改修工事
ダイアパレスビル本町　大規模改修工事追加工事
藤井株式会社　事務所新装工事
肥後橋ビル　大規模改修工事
丸紅不動産株式会社　四ツ橋パークビル外部駐車場設置工事
丸紅株式会社　屋上防水工事番号(通気複合防水)
丸紅株式会社　各所防水補修工事
株式会社かんぽ生命保険　かんぽ生命保険大津支店模様替工事
株式会社トヤマビル　新館6階改修工事
株式会社トヤマビル　本館7～9階空調工事
株式会社トヤマビル　中央館2・3階トイレ改修他各所補修工事
株式会社トヤマビル　本館6階南空室改修工事
株式会社イトーキ　西天満パークビル3号館4階事務所跡整備工事
株式会社イトーキ　西天満パークビル3号館8階事務所跡整備工事
株式会社オフィス設計　ライズ88ビル4階事務所跡間仕切改修工事

商業施設・病院・公共施設

株式会社カンソー　イズミヤ和歌山店外壁改修工事
株式会社カンソー　イズミヤ多田店改装工事
株式会社カンソー　イズミヤ若江岩田店改装工事
株式会社カンソー　イズミヤ若江岩田店食品改装工事
株式会社カンソー　イズミヤ若江岩田店各所漏水補修工事
株式会社カンソー　イズミヤ庄内店食品改装工事
株式会社カンソー　第一樹脂工業株式会社新工場改修工事
イズミヤ株式会社　イズミヤ和歌山店擁壁改修工事
イズミヤ株式会社　イズミヤ庄内店屋上防水改修工事
イズミヤ株式会社　イズミヤ伏見店第二駐車場ネットフェンス新設工事
株式会社コスモ　大正店改修工事
富士電機E&C株式会社　庄内店下水処理場付帯工事
富士電機E&C株式会社　庄内店下水処理場高圧受電設備更新工事
富士電機E&C株式会社　関西国際空港株式会社給油計装電気設備工事
富士電機E&C株式会社　大阪市水道局大淀配水場基礎工事

2009年
住宅・マンション

丸紅不動産株式会社　カルムイン緑地公園外壁改修工事
T邸　新築工事
大阪府茨木市マンション外構改修工事(アスファルト舗装)
兵庫県川西市マンション　ゴミ庫フェンス設置工事

オフィスビル

株式会社グランドアメニティ　コスモプラザビル12～14階テナント入居工事
株式会社丸紅フットウェア　事務所移転工事
丸紅不動産株式会社　西天満パークビル3号館各階共用部改修工事
三菱電線工業株式会社　扇町パークビル各階事務所跡原状回復工事
株式会社ヒノモト　ライズ88ビル7階事務所跡原状回復工事
株式会社トヤマビル　新館5階空調工事

商業施設・病院・公共施設

株式会社カンソー　イズミヤ河内長野店フードコート改修工事
株式会社カンソー　イズミヤ南港センターコンテナ置場増築工事
株式会社カンソー　まるとく市場北緑が丘店改装工事
株式会社ワタベ　摂南大学建築工事迂回工事
イズミヤ株式会社　イズミヤ東寝屋川店外壁改修工事
イズミヤ株式会社　イズミヤ中百舌鳥店屋上防水改修工事
イズミヤ株式会社　イズミヤ検見川浜店外壁漏水補修工事

2010年
住宅・マンション

丸紅不動産株式会社　カルムイン緑地公園各階トイレ改修工事
丸紅株式会社　丸紅若山荘屋根改修工事
丸紅株式会社　甲東荘D棟屋根改修他各所工事
O邸　増築工事
中央設備エンジニアリング株式会社　伊藤忠千里寮外壁改修工事

オフィスビル

株式会社かわい商会　K2ビル外壁改修工事
株式会社ヒノモト　ライズ88ビル4階事務所跡原状回復工事
株式会社トヤマビル　新館9階空調増設工事
丸紅不動産株式会社　南森町パークビル3～9階共用部改修工事
株式会社カミヒサ　上組大規模改修工事
株式会社グランドアメニティ　コスモプラザビル凸版印刷工事

商業施設・病院・公共施設

イズミヤ株式会社　イズミヤ西神戸店各所改修工事
イズミヤ株式会社　イズミヤ松原店屋上防水改修工事
イズミヤ株式会社　イズミヤ庄内店駐輪場テント改修工事
イズミヤ株式会社　イズミヤ茨木店2階改装工事
イズミヤ株式会社　南港センターサービス物流棟1階角波板補修工事
淀川区医師会看護専門学校　給水設備改修及び教務室・更衣室増築工事
クウケン株式会社　北欧フードサービス株式会社住之江工場改修工事
株式会社サンユー　ライフ本山店外装改修工事
株式会社カンソー　イズミヤ今福店1階改修工事
株式会社カンソー　イズミヤ和泉府中店改装工事
株式会社カンソー　イズミヤ昆陽店改装工事
株式会社カンソー　イズミヤ天下茶屋店テナント区画改装工事
株式会社カミヒサ　湘南美容外科クリニック心斎橋院新設工事
富士古河E&C株式会社　中山鋼業株式会社菅路工事

2011年
住宅・マンション

大阪市淀川区マンション開放廊下床改修・防雨フェンス新設
大阪市淀川区マンション駐輪場改修工事
日本住宅管理株式会社　サンマンション西京極駐輪場改修工事
伊藤忠商事株式会社　千里寮屋上庇漏水補修他諸工事

オフィスビル

株式会社ニッコー　ニッコー柴谷倉庫事務所改修工事
丸紅株式会社　大阪丸紅ビル各所修繕工事
株式会社トヤマビル　トヤマビルエントランス改装工事
ライズ88ビル8階事務所火災跡復旧工事

商業施設・病院・公共施設

阪和自動車道長峰トンネル電気集塵機設備基礎・天井ダクト工事
丸紅不動産株式会社　梅田パークビル外壁改修工事
株式会社カミヒサ　Sクリニック増床工事
イズミヤ株式会社　イズミヤ西神戸店本館外壁改修工事
イズミヤ株式会社　イズミヤ上新庄店各塔や屋上防水改修工事
イズミヤ株式会社　イズミヤ淡路店改装工事
イズミヤ株式会社　イズミヤ新大宮店改装工事
イズミヤ株式会社　イズミヤ洛北店改修工事
富士古河E&C株式会社　大阪市交通局電気付帯工事
富士古河E&C株式会社　池田下水処理場受変電電気付帯工事

（2012年1月31日現在）

栄和建設株式会社　創立六十五周年

礎　石

更なる未来の発展を

平成24年10月発行

発　　行：栄和建設株式会社

〒541-0052 大阪市中央区安土町1丁目5-11

著　　者：戸田　孝

印刷･製本：東洋紙業株式会社

※本書は戸田孝による回想を基本に、関連する資料を参照しながらまとめたものです。
　本人の記憶違い等による事実の誤り等がある場合は、ご容赦ください。
※本書に記載されている住所、氏名、法人名等は記述時点のものです。